

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944
電話 0798-33-1298 email nmc00065@nishi.or.jp web www.nishi.or.jp/~kyodo/

平成14年度指定文化財公開 『史跡西宮砲台関係近世文書展』について

衛藤彩子（当館嘱託）

はじめに

当館では毎年11月3日、文化の日にちなみ、西宮市内の指定文化財を観覧する機会を設けてきた。平成14年度は11月1日から10日まで「史跡西宮砲台関係近世文書展」と題し、西宮砲台の築造に関する当館所蔵の近世文書を公開展示した。

当館で所蔵している砲台関係近世文書は「大村太右衛門氏文書」内に23点、「西宮市役所架蔵文書」内に1点である。それらは、現在では全て翻刻され、刊行物に収録されている。しかし、『西宮市史』第6巻⁽¹⁾においては紙面の都合上、全文書が収録されず、後に当館の『研究報告』で梅溪昇氏が未収録分他を翻刻、図版とともに紹介した⁽²⁾。そのため「大村太右衛門氏文書」は、その内容に関係なく複数の刊行物に分かれて収録されることとなった。

一方、今回の展示では、築造の経緯について理解しやすいよう、個々の文書を内容ごとにまとめた形で紹介することを心がけた。それをもとに、本稿では記録類、図面、資材調達、経費に分け、当館所蔵の文書群から得られる情報について整理してみたい。

1. 西宮砲台の歴史的な経緯

幕末、外国船来航に国防不安を感じた幕府は大阪湾沿岸に砲台を築いた。文久3年（1863）3月、場所を湊川、和田岬（現神戸市）と西宮、今津に定め、西宮砲台は現西波止町、今津砲台は現今津真砂町に築造されることとなった。

着工は同年8月で、西宮、今津両砲台の工事は平行して進められた。大坂町奉行所役人、西宮地付同心が立ち会い、また御影村（現神戸市）の幕府廻船方御用達嘉納次郎作が差配

方として工事請負の任に当たった。完成は慶応2年（1866）下半期と考えられるが、両砲台とも実際に使用されることなく明治維新を迎えた。

2. 記録類

築造作業経過の記録類として、まず『日記』⁽³⁾がある。西宮今津御台場掛として交替で2人ずつ出張してきた大坂町奉行所役人が、宿で付けていた業務日誌である。文久3年8月3日、着工と同時に書き始められた。しかし、工事現場で御小屋付日記が書かれていることを理由に10月下旬で記述が終わっているため、その後の作業の様子は分からない。

『日記』以後の史料空白期間を経て、工事最終段階の時期に作成された『今津御場所諸取斗向 手控』⁽⁴⁾には、「手控」の名の通り、主に資材の金額や人足賃金を控えてある。「石堡塔雨漏り」などの記述も見える。書かれた時期が慶応2年1月から5月頃までで、「両場所」という記述があることから、この時点にいたっても、なお西宮、今津両砲台の工事は続けられていたらしい。

砲台の構造についての記録では『和田岬砲台築造明細書上』⁽⁵⁾がある。西宮今津御台場御用出役掛を命ぜられた西宮地付同心が、先に築造の始まっていた和田岬砲台の例を参考とするため写したものである。地面下の基礎と、石郭部の構造の図面も付されていて、西宮砲台の構造を知る上で貴重な史料である。

また、『石堡塔木寄』⁽⁶⁾は使用した木材の材質、数量、寸法の明細で、柱、梁、天井板など、各階のどの場所に、どのような木材が使用されたのかを知ることができる。

3. 図面

砲台石郭部の基礎構造は、下から地杭、盤木、台木、根石と重ねられている。中央にある井戸周りの基礎構造は地杭、盤木、台木、築石、金輪石、柱踏石である。「敷盤木台木図」⁽⁷⁾は、石郭部が台木、井戸周りが盤木を描いたものと思われる設計図である。

井戸周りは、現在では柱踏石が地面上に一部出ているのが見える。「杭木打方図」が2枚残されていて、1枚⁽⁸⁾は作業計画図と思われる。打ち込む杭を○で示し、その中に場所ごとに違う杭の長さが書かれている。もう1枚⁽⁹⁾も同じだが、○の横に「一尺延」「三日」などの書き込みが見られ、印も押されている。このことから、杭打ち作業の終わった部分に押印し、変更箇所や日付などを書き込んだものと思われる。『日記』によると、井戸周りの杭打ちは8月24日に始められ、1日に50人が作業に従事していた。作業は9月5日に終了し、続いて外側の石槨部の杭打ちが行われた。

また、「鉄具図」⁽¹⁰⁾が4枚残されている。鉄製部材が10分の1の大きさに描かれていて、

例えば膝方鉄の釘は長さ2尺4寸2分(約72.6cm)で、下部に16本のネジが切られている様子が分かる。

4. 資材調達

文久3年8月5日付、御台場掛宛に出された書状の写し¹¹⁾は、資材調達の経過報告である。木材伐り出しについては、台木、盤木は別紙取調書の通りに伐り出すこと。杭木の方はこれ以上の値引きは無理なので、伐り出しは持主住吉村金十郎へ直に申し付けること。また、石材切り出しについては、御普請役と町方の者が明日塩飽島などへ船で向かうつもりであることなどが書かれている。『日記』内にも関連する記事が見え、工事開始直後の様子を伝える史料である。

『差上申御請書(西ノ宮御台場石切出方請書)』¹²⁾は、備中国小田郡神島外浦、白石島、北木島、真鍋島(現岡山県笠岡市)の石切人らが、石材切り出しを大坂通用金相場をもって支払を受ける条件で請け負ったときのものである。このように、西宮砲台の石材は近在から運ばれるだけでなく、瀬戸内海の島々からも調達された。

木材は上ヶ原新田、今津村や、播州加古郡などから積み送られてきた。松杭木の請負書¹³⁾は3通をこよりで綴じており、その中の1通は前述の住吉村木屋金十郎である。内容は請け負った杭木の長さごとの代金、本数で、御台場御差配方嘉納次郎作を経由して御台場御掛り御役所へ出されたものである。

5. 経費

着工直後の経費は『今津 西宮 八月五日より九月十五日迄御入用高』¹⁴⁾により知ることができる。一部に訂正のあとがあるが、『日記』中の、間違いを見つけたので直したという記事はこのことだろうか。訂正前の合計金額¹⁵⁾は、西宮砲台が銀9貫394匁4分8厘と銭494貫423文、今津砲台が銀10貫855匁9分7厘と銭494貫220文だった。

同じく着工直後に、差配方嘉納次郎作が砲台築造の経費として銀200貫の内借を願い出たことが『日記』8月27日条に見える。しかし、『西宮今津御台場御入用銀内借奉願上候書附』¹⁶⁾では、それを9月28日に受け取ったものの、同年11月には足りなくなり、さらに300貫を渡して欲しい旨を御台場御掛御役所へ願い出ている。

経費の内、人件費については大工職他作料の「覚」¹⁷⁾に工事に従事した職人、人足の賃金1人前が書き上げられているが、その下には朱書きで、物価高のため2人前を渡す旨などが書き込まれている。

おわりに

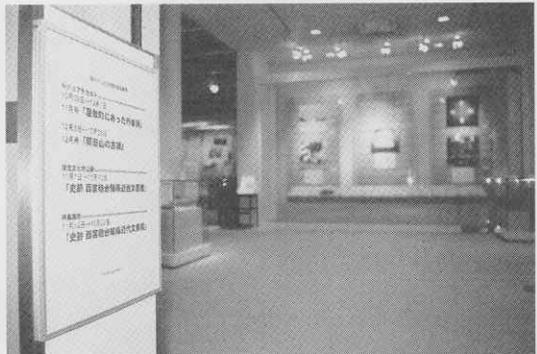
指定文化財公開展示をもとに、西宮砲台関係近世文書の概略をまとめてみた。当館所蔵文書は西宮、今津、どちらの砲台についてかはっきりしないものも多いが、着工直後の文久3年8～10月に集中しており、『日記』の時期と重なる。これらから砲台の全体像を掴むのは難しいが、基礎工事に関しては豊富な情報を含んでいる。今後、他地域に造られていた砲台の資料も参考としながら、西宮砲台の姿をより鮮明にしていきたい。

註

- (1) 『西宮市史』第6巻 資料編3 (1964年、西宮市役所)
- (2) 「西宮・今津砲台築造関係史料について—新史料の紹介と若干の解説—」(『研究報告』第1集、1991年、西宮市立郷土資料館)、「西宮・今津砲台築造関係史料について(三)—未刊資料の紹介—」(『研究報告』第3集、1996年、西宮市立郷土資料館)
- (3) 文久3年(1863)、大村太右衛門氏文書12(番号は『西宮市史編集資料目録集』第17による。以下同じ)
- (4) 慶応2年(1866)5月、大村太右衛門氏文書30
- (5) 文久4年(元治元年/1864)2月、西宮市役所架蔵文書(六)その他4
- (6) 年代不明、大村太右衛門氏文書25
- (7) 年代不明、83.5cm×80.0cm、大村太右衛門氏文書24
- (8) 年代不明、27.4cm×40.1cm、大村太右衛門氏文書23-2
- (9) 年代不明、28.0cm×39.8cm、大村太右衛門氏文書23-1
- (10) 年代不明、大村太右衛門氏文書22-1、22-2、22-3、22-4
- (11) 文久3年(1863)8月5日、大村太右衛門氏文書27
- (12) 文久3年(1863)8月、大村太右衛門氏文書13
- (13) 文久3年(1863)9月/10月、大村太右衛門氏文書20
- (14) 文久3年(1863)9月、大村太右衛門氏文書28
- (15) (14)の写、大村太右衛門氏文書29
- (16) 文久3年(1863)11月、大村太右衛門氏文書21
- (17) 文久3年(1863)9月、大村太右衛門氏文書17



指定文化財公開展示の状況



特集展示の状況

第22回特集展示『史跡 西宮砲台関係近代文書展』 について

俵谷和子（当館嘱託）

はじめに

「史跡西宮砲台関係近代文書展」は、指定文化財公開展を受ける形で平成14年11月12日から12月22日までの期間で実施した。本展示は、維新後、砲台が民間に払い下げられ、史跡として指定される経緯を紹介するものであった。展示資料を大きく分けると、跡地払い下げ申請の書類、払い下げ申請許可後の書類、史跡となった砲台の管理者関係の書類である。いずれも本市役所に所蔵されてきた資料である。資料というよりは現用文書群として、ファイリングされた状態にあった。もとは簿冊で、「石堡塔払下出願ニ関スル一件書類」「石堡塔北手官有地荒蕉地払下開墾書類」「史跡関係書類」がそれぞれのタイトルとなっている。現用に近いかたちで保存されてきた資料なので、今回の展示が一般の方に紹介する初めての機会となった。

まず最初に、維新後の砲台の流れを見ておきたい。明治政府は、明治6年1月に太政官達しとして、全国各地に所在する城郭の存廃を決定した。前後して鎮台でも、台場・砲台について概ね廃止の規定が設けられており、不要となった台場・砲台は、逐次取り壊されていったようである。しかし、その一方で明治8年1月25日付太政官達第15号に、台場・砲台を従来のままにしているも良いとする達しが出され、政府は取り壊しに慎重な姿勢も見せている。

台場・砲台は、その広大な土地・地理的な重要性から、さまざまな土地活用がなされることになる。西宮砲台のように、民間に払い下げられる場合もあるし⁽¹⁾、品川台場など東京湾沿岸部では、跡地に要塞地帯が整備される場合もあった。

西宮砲台は、明治元年和田岬・湊川・今津の砲台とともに、神戸外国掛伊藤俊輔(博文)から兵庫出張軍防事務局曾我準蔵(祐準)へ交付された。明治5年3月には大阪鎮台に移管となり、陸軍省からは無用であるので売り払うべきの議が出された。これによって、兵庫県では売り払いを布告することになるが、県令神田孝平によって跡地の売り払いは中止されることになる。こうして、維新後も取り壊されることなく残存した西宮・今津砲台に対して、跡地利用の申請が出されるようになる。

以下、展示資料に基づいて、明治以降の西宮砲台について紹介する。()内は、展示資料番号とタイトルである。

1. 払い下げの申請

砲台の跡地をめぐって提出された払い下げ申請書類で最も古いものが、明治12年西宮浜石材町の古道具商八馬四郎兵衛によるものであった(1. 御窺書)。四郎兵衛は、工兵第四方面宛に西宮・今津いづれかの砲台跡地の払い下げてほしいと願い出たのである。古道具商であった四郎兵衛が、どのような目的で払い下げを申請したのか、この伺い書からは判断することができないし、この申請に対する政府の動きについても、資料を欠いているため明らかではない。

それから5年後の明治17年、西宮砲台は、火災のため内部の木造構架を焼失してしまう。火災の原因は、放火であったとか、砲台内に住み着いた者による火の不始末であるとか、後代に様々な憶測がされているがはっきりとしたことは分かっていない。

明治39年7月、西宮町は、陸軍省に対し西宮砲台跡地(字西波止5374-1)の払い下げを申請する(2. 石堡塔敷地并ニ石材払下願)。出願事由は、西宮が阪神間の中間に位置し淡路や河内・和泉の山並みが広がる風光明媚な場所で、海水浴場に適している。近年は、阪神電気鉄道も開通し交通利便となり、来遊者も増加し遊園地²⁾が手狭となったので、遊園地を拡大したい、そのために砲台跡地の払い下げを要求するとしている。

しかし、この申請に許可は下りなかった(3. 払い下げ不認可の送達)。西宮町ではさっそく委員会を開催し、今後について協議している。ところが、同年9月、武庫郡役所から陸軍省で砲台跡地を耕作又は牧場用等の目的であれば貸下を許可する意向があるので、希望者の有無を調査する旨の達しが出される(4. 陸軍省用地貸下許可の通知)。先の不許可通知は、西宮町の使用目的が陸軍省の意にそぐわなかったということなのだろう。

西宮町では、この達しを受け早速払い下げではなく、借用に切り替えて陸軍省に対し申請を行う(5. 陸軍省所管石堡塔地借用願)。しかし、これも許可されず「6. 借用許可成り難しの通知」に添付されて、申請書等の書類が返送されてくる。西宮町は、翌年1月29日付で、再び払い下げで申請(7. 石堡塔地并ニ払下願)を行うが、許可が下りることは無かった。

そこで西宮町は、同年6月、出願場所を字西波止5374-1から、字西波止5375-3(石堡塔の北側)に切り替えて申請を行った(8. 開墾予約払下ニ付官有地借用願)。使用目的も、遊園地の拡大から宅地にかわっている。出願地は、整地が完成するまでの借用地とし、成功した後買い受けするというスタイルであった。同月29日の「9. 委員会記録」によれば、砲

台跡地の所管が陸軍省より内務省、さらには兵庫県に移ったので兵庫県へ出頭陳情することが決定している。そして、「10. 11. 石堡塔地払下御願」が陸軍省宛と兵庫県宛に提出された。その後のやりとりは順調であり、同年7月25日付で「12. 官有地無料貸付の通知」が出され、借用が許可されたので拝借料を支払うよう兵庫県から通知を受けている。

こうして、西宮町の砲台跡地をめぐる申請に一応の終止符が打たれた。

2. 払い下げ許可後の書類

宅地として使用することが許可された字西波止5375-3は、出願地の一部に高低差があったため整地工事することになった(13. 土地掻取願)。土砂は、小船1艘にて陸揚げし荷車で目的地に運ぶことが記されている。簿冊の中には、字西波止5375-3(5反14歩)のうち、埋め立て場所が朱書きしてある実測図(14)などがともに綴じられている。

明治40年12月21日、借用地の整地が完成し、兵庫県に成功の報告をした(15. 予約開墾官有土地事業成功届)。これを受け、兵庫県より払い下げ認可の通知書が届く(16. 官有地売払予約開墾成功認可の通知)。こうして、字西波止5375-3は西宮町の所有となり、翌年2月に登記が行われた(17. 登記嘱託書・登記書)。

字西波止5375-3の申請が順調にいく中、西宮町は、かねてから払い下げが不許可となっていた字西波止5374-1に対し、再び払い下げの申請を行うのである。「19. 砲台跡地特売願」には、明治39年7月以来出願を続けている字西波止5374-1の払い下げ許可への想いがさらに募っている旨が記されている。

しかし、ここから、西宮町の跡地払い下げに関する書類は残されていない。しかも、この跡地は、明治40年代に阪神電気鉄道株式会社へ払い下げが許可されることになる⁽⁹⁾。阪神側で払い下げに関する資料の所在が確認できないため、詳しい経緯については全くわからない。払い下げを許可された後の跡地の利用は、陸軍省の出した牧草地や耕作地ではなく、西宮町が申請していた娯楽施設の一部としてのもの⁽⁴⁾であった。なぜこの跡地が西宮町ではなく阪神に払い下げられたのかは謎というよりは他にない。しかも、西宮砲台と同じく築造された今津砲台は、民間に払い下げられたのち大正4年10月取り壊されているのである。政府の対応に不均一さが見られる。なお今津砲台は、現在、跡地近くに記念石が残されている。

3. 史跡の指定

西宮砲台は大正11年3月8日、内務省告示第四十九号をもって内務大臣指定史蹟となる(20. 史蹟指定ニ関スル件通牒)。同年11月6日には、西宮町が管理者として指定された(21.

管理者指定の通牒)。文化財としての砲台保護のため、翌12年より標注石・境界標・制札の設置工事が行われた(22. 史蹟標識等建設工事ノ件)。添付された図面には標注石・境界標・制札の配置が記されているが、制札や土塁の外側に埋め込まれた境界標については、現在その場所を特定することはできない。標注石のみ、兵庫県の教職員住宅の一角に建っている。

昭和9年近畿地方一帯を襲った室戸台風は、西宮砲台にも大きな爪痕を残していった。調書には、土堡拾大間崩壊(見積被害額223円)、砲台破損(見積被害額1,372円)と記されている。「23. 史蹟名勝天然記念物被害状況調査ノ件」に添付された被害状況写真(24)は、当時の砲台の実況を知る貴重な資料である。被害後、石堡の保護覆屋根工事が施工され、工事仕様書(25. 西宮砲台保護覆屋根工事仕様書)・設計図(26. 西宮砲台保護覆屋根設計図)などが残されている。簿冊の中には、地方大学の見学依頼文や各地からの照会文なども綴られており、史跡としての西宮砲台が一般に認知されている様子がうかがえる。

むすび

平成14年は、西宮砲台の史跡指定より80周年という記念年であった。指定文化財公開と特集展示を同じテーマで開催することは初の試みであったが、市民からの反響も多く寄せられ西宮砲台への関心の高さを改めて認識することになった。今後も砲台に関する資料収集を行い、みなさまに提示することができたらと考える。

註

- (1) 『神奈川お台場の歴史と今』神奈川お台場保存協議会 平成14年3月刊には、「牧畜場や横浜税関埋め立て工事の事務所、ベスト患者の仮設隔離所が設置されるなど、歴史史跡としてではなく、立地条件のよい広大な土地として活用されていた」とあり、佐藤正夫『品川台場考』理工学社 1997年6月刊には、灯台の設置・海軍省兵器製造所の設置・海員寄宿所・牡蠣の養殖場、造船所として民間に払い下げられるなど様々に活用されたことが紹介されている。
- (2) この遊園地については、不明な点が多い。阪神が経営したとする遊園地は夙川の東であり、払い下げ申請の書類に添付された出願地の周辺図には、遊園地は砲台石堡より東側に位置している。
- (3) 『輸送奉仕の五十年』阪神電気鉄道株式会社 昭和30年4月刊には、「明治四十一年に当社が一万一千円余りで払下を受け」とあるが、『武庫郡誌(復刻版)』中央印刷 昭和48年6月刊には、「明治四十三年、阪神電気鉄道株式會社之か拂下を受け(當時海軍省所管)」とある。
- (4) 『武庫郡誌』(前掲書)には、「屋上に鉄棚を設け電燈を點じ、或は卓子を設けるなどして海水浴客の納涼臺に供せし」とある。

目次 CONTENTS

- 平成14年度指定文化財公開『史跡西宮砲台関係近世文書展』について(衛藤彩子) … 1
第22回特集展示『史跡西宮砲台関係近代文書展』について(俵谷和子) … 5
-